

臓器障害（心臓・腎臓・肝臓等）

心臓 心臓の筋肉や神経が障害され、不整脈や心不全がおこることがあります。

腎臓 抗がん剤そのものによる副作用と、抗がん剤によって壊れた腫瘍細胞が体外に排出される際に腎臓に負担がかかることによって腎臓の働きが悪くなることがあります。

肝臓 抗がん剤が肝臓で代謝される際に肝障害がおこることがあります。

その他の臓器でも副作用が起こる場合があります。

症状

心臓 胸部不快感、動悸、息切れ、手足・顔のむくみなど

腎臓 手足のむくみ、血尿、尿のにごり、尿の異常（回数・量）など

肝臓 倦怠感、食欲不振、黄疸など



予防と対策

- ・これらの副作用は稀にしか起こりませんが、一旦起こると重症化します。その為に、心電図、尿、血液などの各種検査を定期的に受けてください。
- ・腎障害の対策として水分を十分に摂って一定量以上の尿を出すことが大切です（医師の指示に従ってください）。
- ・アルコールを多量に摂取しないでください。

